

受賞者《伴ピーアール株式会社》

＜日本初のリチウムイオン電池推進旅客船運航＞

平成24年10月より、旅客船事業として日本初となるリチウムイオン電池推進旅客船「あまのかわ」を運航している。

照明器具へのLED利用やソーラーパネルを活用した電力供給など水性植物や生物にも影響を与えにくいコンセプトで河川の自然環境の保全・再生も目指している。

1. 背景

2003年3月、世界182ヶ国と地域から24,000名が集まり、琵琶湖・淀川流域の滋賀・京都・大阪の3都市で8日間にわたり第3回世界水フォーラムが開催されました。その中の舟運分科会を契機に、大阪府・市・政財界・市民が中心となって水都大阪再生を打ち出す。これに伴い、観光舟運の活性化にも取り組むことで再生を計ることとなった。都市型の観光舟運活性化のため、日本の技術を結集して船においても低炭素社会の実現に向けた先進的な世界に誇れる船の開発も必要と考えるに至った。

また、1997年の河川法の変更もあり、船が走行することにより発生する波の影響（航走波）によるヨシ原やワンド等へ環境影響、底泥巻上や油流出・水中排気による汚染、水質（飲み水）への影響が考えられるため、淀川舟運としての課題として環境面への配慮は避けて通れないこともあった。

2. 取組みの内容

- ・まず、建造にあたって環境や大阪の河川の特性に合わせた船を造る。
- ・ツネイシクラフト&ファシリティーズ、大洋電機、三菱重工、伴ピーアールでプロジェクトチームを結成。民間だけのプロジェクトなのでコストをかけない船を造る。



- 1) CO₂・NO_xを排出しない、リチウムイオン電池を搭載した空気や河川を汚さない安全で快適な船で、実用速力は4ノット（時速7km）程度。
- 2) 河川の動植物や水質に影響を与えない船。
- 3) 走行しても波が立たない船。（船舶の大きな引き波でカヌーやレガッタの転覆事故が多いため）

4) どの港でもコンセントが有れば、1 時間充電で 6 時間走行できる船。

5) JCI（日本小型船舶検査機構）の船の検査にパスできる船。

3. 取り組みの成果

この 1 年間で多くの市民や学者が乗船。電気船という事で、水上交通に対してクリーンなイメージを啓蒙することができた。また、天神祭の船渡御（約 100 隻）に参加することなどで、舟運業者のみならず、多くの見物人（約 100 万人）にも見てもらった。

4. 環境活動の経歴

1988 年から 12 年間毎年、水質環境保護活動として大川にニジマスを放流。1998 年から近畿 1400 万人の飲み水である琵琶湖の水をきれいにしようと、水質浄化に役立つヨシの保護と活用のため、枯れヨシで作った紙「レイクパピルス」を開発、2001 年琵琶湖であった世界湖沼会議に参加。現在も活動中。

2003 年第 3 回世界水フォーラムを機に、実際に水上から水環境問題に対する意識を高めてもらおうと、舟運事業を立ち上げ、小型旅客船「浪切天神Ⅰ」（旅客定員 10 名、4 サイクルエンジン）を就航させる。続いて、三十石船を現代風にアレンジした「浪切天神Ⅱ」（旅客定員 25 名、4 サイクルエンジン）を就航。

2012 年には排気ガスゼロ、水を汚さない、低騒音・低振動を考えた、世界初オールア

ルミ製リチウムイオン電気遊覧船「あまのかわ」（旅客定員 40 名）を水の都大阪で就航させる。



伴ビークール株式会社
代表取締役
伴 一郎

〒530-0047
大阪市北区西天満 5-10-17
西天満パークビル 2 階
電話 06-6314-3772
URL <http://www.banpr.co.jp/>

環境活動の理念

環境問題は人と人の関係問題としてとらえ、大阪まで含めた琵琶湖・淀川流域が一緒になって水環境や自然環境の循環型社会を少しでも復活させたいと、出来るところからひとつひとつ取り組んでゆく。